

首都圏CCS事業の現在地

2026年9月28日

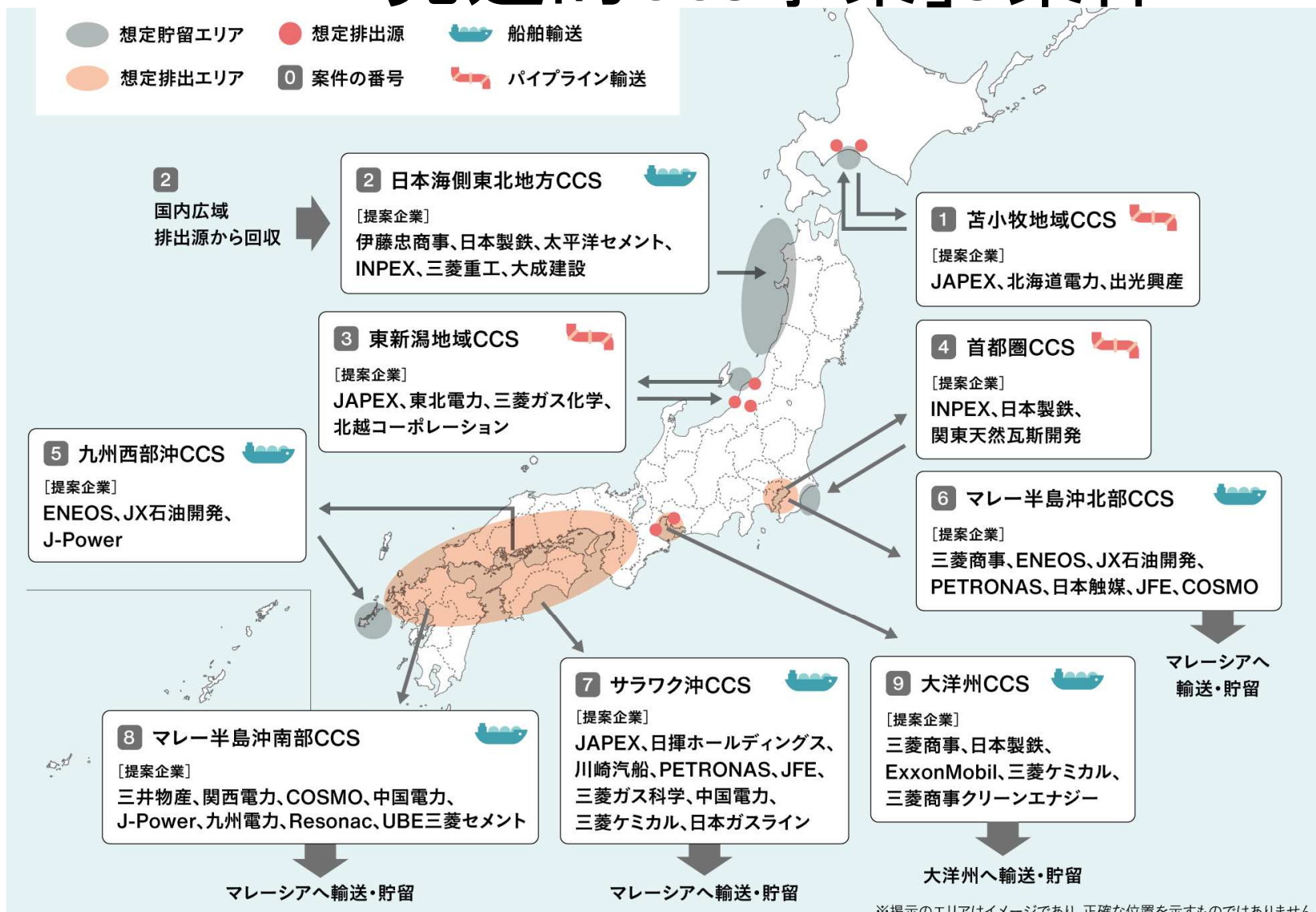
国際環境NGO FoE Japan

吉田明子 yoshida@foejapan.org

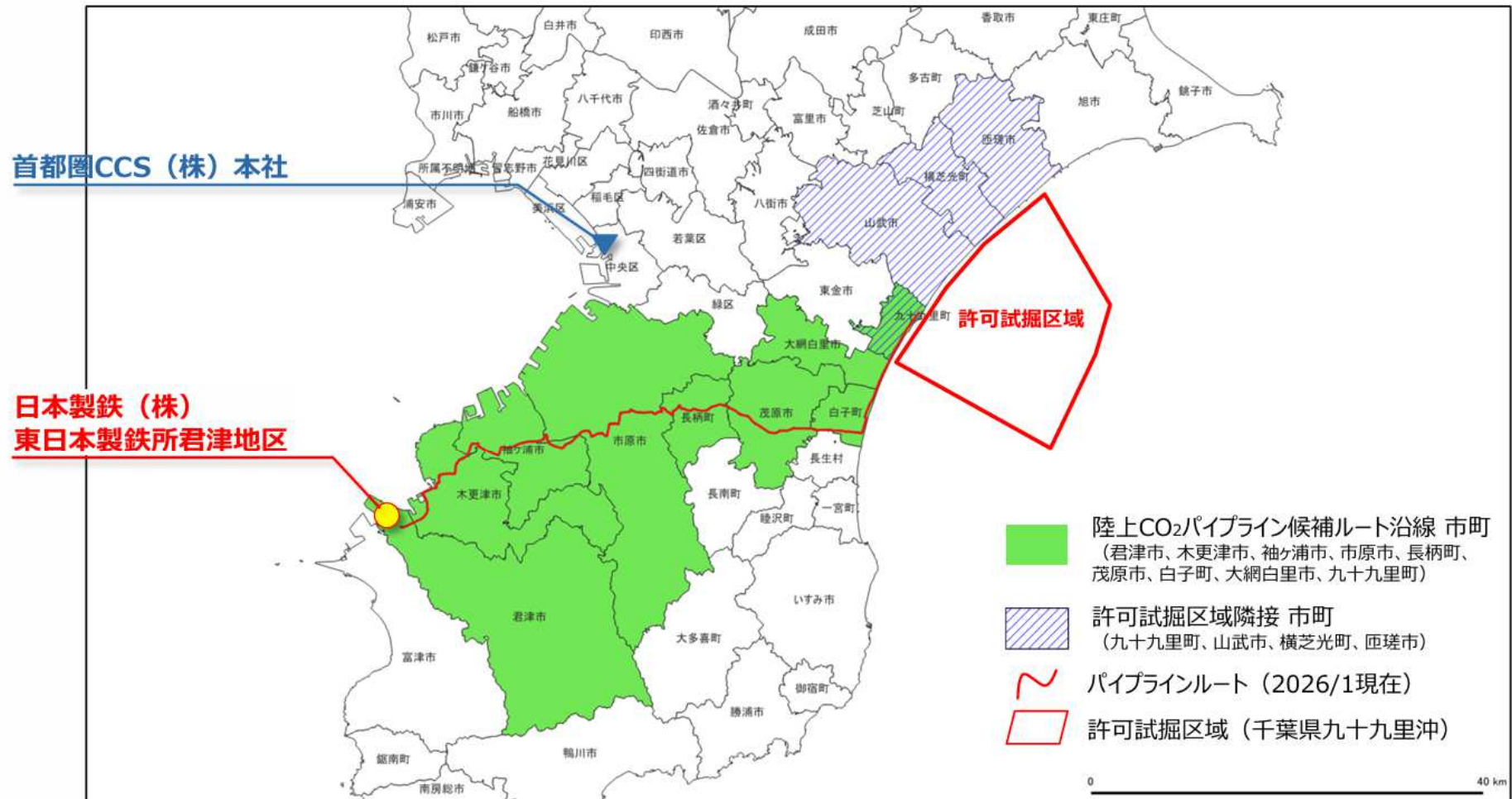


「先進的CCS事業」9案件

想定貯留エリア
 想定排出源
 船舶輸送
 想定排出エリア
0 案件の番号
 パイプライン輸送



首都圏CCS事業とは



お示しするルートにて調査設計を実施中ですが
調査結果により、最終的なルートは変更する可能性があります。
最終的には通過地区様からのご理解を得て決定する予定です。



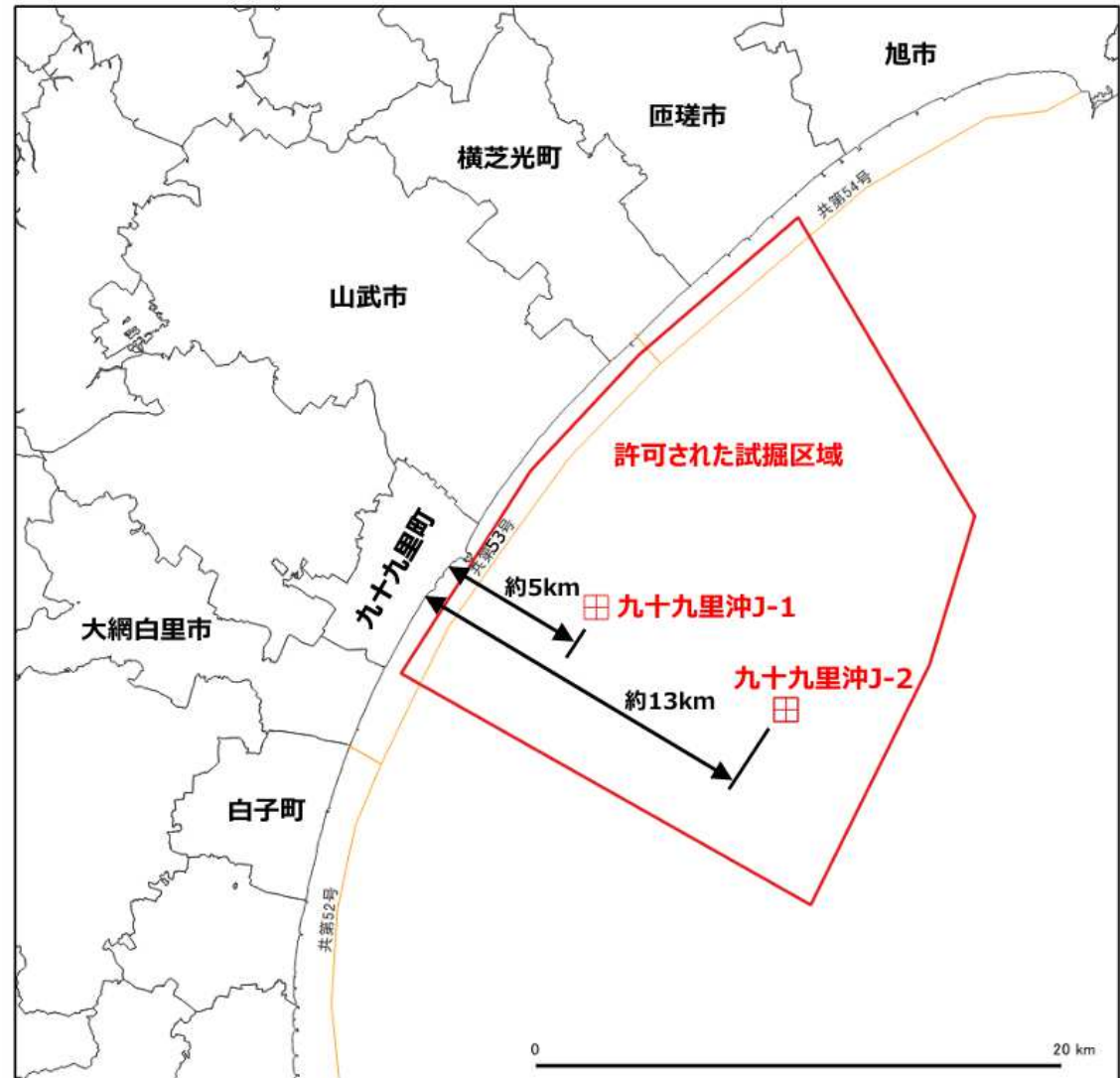
2026年7月19日撮影

九十九里沖試掘を実施中

- 4月15日 試掘許可
- 7月6日 沿岸5キロ地点(J1)の試掘開始
- 8月22日 重油37リットルが流出
- 8月29日 フィルターの発火
作業一次中断
- 9月6日 作業再開

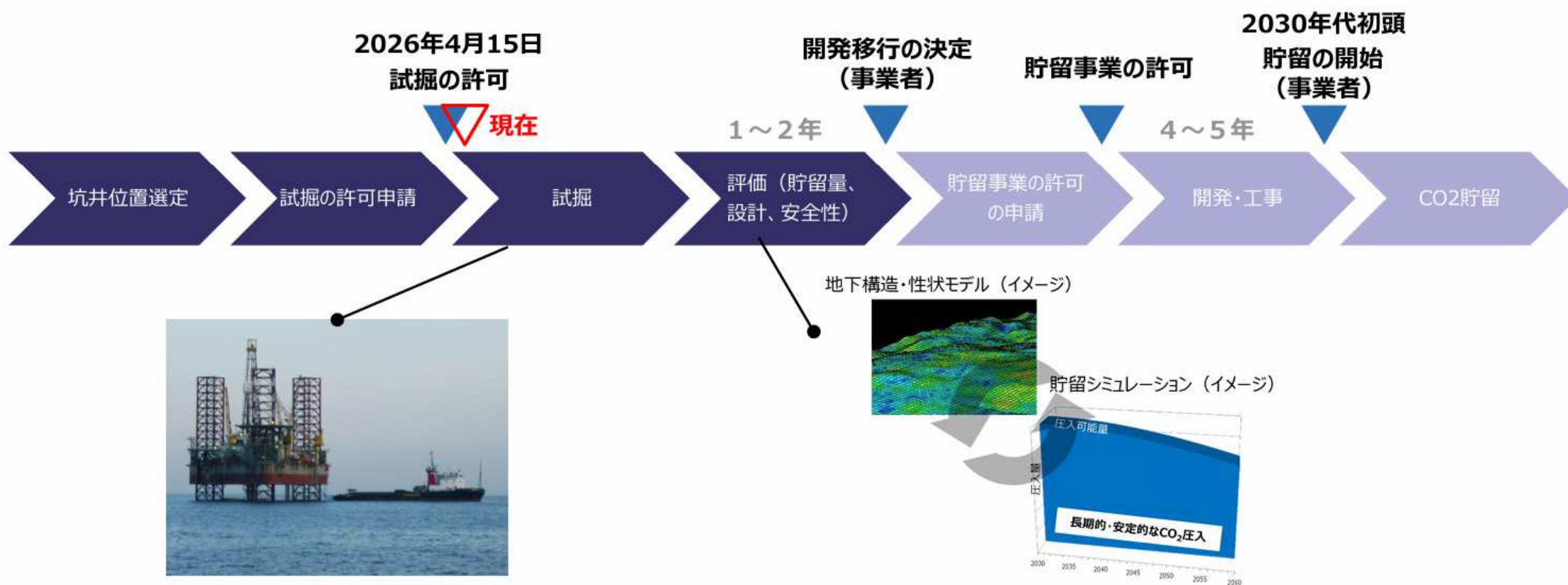


- 7月14日 住民らとFoE Japanが試掘許可に対し不服申し立て
- 9月7日 事故に関する公開質問と申入れを提出
- 9月18日 回答公開



試掘から貯留に至る評価・許認可プロセスの全体像

- これから実施する試掘およびその評価結果を踏まえ、事業化の可否について判断を行います。
- 貯留区域における検討と並行して、陸上CO₂パイプラインの調査・設計を実施いたします。



CCSなどの「脱炭素化技術」は解決策ではない

- **間に合わない**

10年後にも不確かな技術に期待できず

(仮に進んだとしても2030年代半ば～本格化は2040年代?)

その間、CO₂を出し続ける

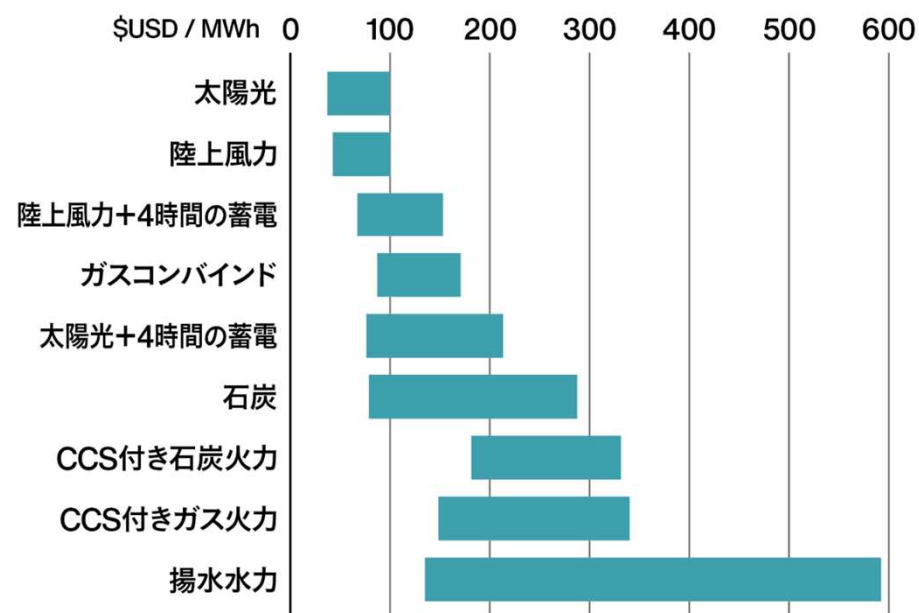
- **コスト・リスクが大きすぎ効果は小さい**

経済性がなく国の支援なしにできない、リスクは計算不能

首都圏CCS事業で貯留想定(初期)の「年間120万トン」

＝石炭火力1基からの排出とほぼ同じ

CCSを使用した火力発電の発電量あたりのコストは、再生可能エネルギーと蓄電の組み合わせよりも少なくとも1.5～2倍になる



エネルギー別LCOE(発電量あたりのコスト)比較
IEEFA資料よりFoE Japan作成

気候アクションウィーク 2026



9.11.FRI → 27.SUN

2026年9月11日(金)~27日(日)

「とめよう温暖化 みんなで耕すミライ」

- 世界最大級の気候アクション「Climate Week NYC (9/20-27)」に呼応
- 現在60近くのアクション



←design: Momoe Narazaki